

羅臼町 アイヌ政策推進交付金事業計画 変更内訳

1 今回の変更事業

(1) 地域・産業振興事業

- ・アイヌブランド化による水産振興事業

2 変更内容

(1) 追加

- ・アイヌブランドの広報・宣伝事業

北海道庁が主催する「アイヌ文化サミット」に参加し、アイヌブランドの水産物の広報・宣伝を実施する。

3 増減額

703 千円（事業費）

4 事業計画変更箇所

(1) 事業内容の修正

- ・「4 事業の概要」

(2) 金額の修正

- ・「8 収支予算」
- ・「9 経費の配分」
- ・「別表 1 収支計画書」

アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	羅臼町アイヌ施策推進事業
2 事業の種類	(文化振興事業) (地域・産業振興事業) (コミュニティ活動支援事業)の別
3 事業の目的	羅臼町ならではのアイヌ民族の証を次世代に継承し、また情報発信し内外に伝えることにより、アイヌ文化と地域の振興を図ることを目的とする。
4 事業の概要	(1)文化振興事業 ①アイヌ文化の記録保存事業 ②アイヌの伝統等に関する文献等の収集・分析及び基礎資料作成事業 ○事業実施主体 羅臼町 ○事業の実施場所 ・羅臼町内に点在するチャン跡等 ・羅臼町内全域 ○事業の実施期間 交付決定日～令和9年3月31日 ○事業の内容と考え方 <u>①アイヌ文化の記録保存事業</u> ・自然崩落の影響を受けやすいチャン跡の記録保存のため、地形測量、空撮及び3Dモデル作成を実施する。 ・本事業を通じてアイヌ文化の記録保存を進めるとともに、本事業の成果は、今後のアイヌ施策推進事業の実施にあたり基礎資料として活用する。 <u>②アイヌの伝統等に関する文献等の収集・分析及び基礎資料作成事業</u> ・令和7年度の調査結果等を踏まえ、平成22年に作成している「続・羅臼町の地名について」を、今後、羅臼町におけるアイヌ施策推進に当たり関係者が参照すべきガイドブックとして全面改訂するため、ガイドブックの原稿作成及び図表作成等を行う。 ・本事業を通じてアイヌの伝統等に関する理解の促進を図るとともに、本事業の成果は、今後のアイヌ施策推進事業の実施にあたり基礎資料として活用する。 (2)地域・産業振興事業 ①アイヌの伝統等に関する観光コンテンツ造成事業 ②アイヌの人々の利便性向上及び観光振興のためのバス運営事業 ③アイヌブランド化による水産振興事業 ○事業実施主体 羅臼町 ○事業の実施場所 ・羅臼町内全域 ・水産物の増養殖施設 ○事業の実施期間

	交付決定日～令和9年3月31日 ○事業の内容と考え方 ①アイヌの伝統等に関する観光コンテンツ造成事業 ・アイヌの伝統、文化、生活様式等を体験できる羅臼町ならではの観光コンテンツを造成するため、観光コンテンツにふさわしいアイヌの伝統、文化、生活様式等の調査検討及び観光コンテンツの提供体制の検討等を行う。 ・本事業を通じてアイヌ文化による産業振興を図る。 ②アイヌの人々の利便性向上及び観光振興のためのバス運営事業 ・羅臼町郷土資料館や羅臼町図書館、羅臼町内の観光拠点等を結ぶアイヌラッピングバスの運行計画、乗車方法、広報、車内広告スペースを活用したアイヌ文化等の啓発方法等について検討を行う。また、今後の実証的な運行に向けて必要な準備を実施する。なお、バスの運営に当たっては、将来的な自走化を目指すこととする。 ・本事業を通じてアイヌの人々の日常生活における利便性を向上させるとともに、アイヌ関連施設への観光客への誘客を促進する。 ③アイヌブランド化による水産振興事業 ・令和7年度の調査結果等を踏まえ、水産物のアイヌブランド化に向けたストーリーの作成及びイラスト作成等を実施する。なお、アイヌの人々の自然観を踏まえた持続可能な漁業の推進等も含めたストーリーとする。 ・また、北海道庁が主催する「アイヌ文化サミット」に参加し、アイヌブランドの水産物の広報・宣伝を実施する。 ・本事業を通じてコンブをはじめとした水産物とアイヌの関わり等に関する理解の促進を図るとともに、本事業の成果は、今後の水産物のアイヌブランド化推進事業の実施にあたり基礎資料として活用する。 ・なお、今後のアイヌブランド化の推進に当たっては、町内の関係事業者が自由に活用可能なアイヌ文様のデザインの作成、ウェブサイトにおいてアイヌの歴史や哲学を踏まえた水産業を実施していることの周知等の実施を検討している。 ・羅臼町では、ウニ、コンブ、カレイ類等の種苗生産を図るため、水産物の増養殖施設を整備している。当該施設において、種苗生産に必要な電気を供給するための変圧器を更新するとともに、種苗生産に用いる海水のろ過装置のろ材を交換する。 ・アイヌブランド製品を安定的に供給するため、本事業を通じてウニやコンブをはじめとした水産資源の維持増大を図る。 ・なお、当町においては、就業しているアイヌの約7割が漁業関係に従事していることから、アイヌブランドを構築し、水産業を振興することで、アイヌの人々をはじめとした水産業従事者の生活基盤の安定化を図る。
5 アイヌ施策推進地域計画における記載	4ー1 アイヌ文化の保存又は継承に資する事業 ①アイヌ文化の記録保存事業 チャシ跡は本町のアイヌ文化の歴史を現在にとどめている重要な史跡であり、次世代にアイヌ文化を継承するための重要な財産であるが、浸食が進み自然崩落の恐れが高いため、チャシ跡の記録保存のため、地形測量及び空撮を実施するとともに、3Dモデル

を作成する。加えて、アイヌ文化の遺跡や遺物等の調査・分析・保存を推進する(遺物の調査収集・分析・レプリカ作成、遺跡の写真のデジタル化等)。作成した3Dモデル及びレプリカ等については、羅臼町郷土資料館での展示、観光コンテンツ造成等の基礎資料として活用する。

4-2 アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業

①アイヌの伝統等に関する文献等の収集・分析及び基礎資料作成事業

住民(子供含む)及び観光客への情報発信を図るため、アイヌの伝統、文化、生活様式、これらの基礎となるオホーツク文化・トビニタイ文化や自然環境等に関する文献及び書籍を幅広く収集する。羅臼町及び知床半島に係る文献及び書籍に加えて、北海道全体に係る文献及び書籍も収集する。収集した文献及び書籍は、羅臼町郷土資料館、羅臼町図書館又は多機能型交流施設にて住民及び観光客に対して閲覧又は貸し出しをする。

また、収集した文献及び書籍やアイヌ文化の記録保存事業の成果を既存の知見とともに整理・分析することにより、各種事業の実施に当たっての羅臼町ならではのアイヌの伝統等に関する基礎資料として取りまとめる。平成 22 年に作成している「続・羅臼町の地名について」に、本事業の成果を盛り込み、今後、羅臼町におけるアイヌ施策推進に当たり関係者が参照すべきガイドブックとして全面改訂し、増刷する。

②羅臼町郷土資料館におけるアイヌの伝統等に関する展示充実事業

住民及び観光客への情報発信を図るため、アイヌ文化の記録保存事業及びアイヌの伝統等に関する文献及び書籍の収集事業にて得られた成果をもとに、映像やハンズオン等により羅臼町郷土資料館におけるアイヌの伝統等に関する展示のリニューアルを図る。

4-3 観光の振興その他の産業の振興に資する事業

①アイヌの伝統等に関する観光コンテンツ造成事業

アイヌ文化による産業振興を図るため、アイヌの伝統、文化、生活様式等を体験できる羅臼町ならではの観光コンテンツを造成する。観光コンテンツの造成のため、観光コンテンツにふさわしいアイヌの伝統、文化、生活様式等の調査検討、適切なフィールドの選定、ガイド人材の育成、ハンズオン等の制作、モニターツアーの実施等を行う。

また、観光船利用者が多数訪れる羅臼漁港付近にアイヌ文化やアイヌの人々と海棲生物とのつながりを紹介する拠点を整備する。

②アイヌの人々の利便性向上及び観光振興のためのバス運営事業

アイヌの人々の日常生活における利便性の向上及びアイヌ関連施設への観光客への誘客を促進するため、公共施設や商業施設のほか各種事業にて充実・整備を図る羅臼町郷土資料館、多機能型交流拠点及び羅臼町図書館、羅臼町内の観光拠点である道の駅 知床・らうす、知床羅臼ビジターセンター、知床世界遺産ルサフィールドハウス等を結ぶアイヌラッピングバスを運営する。バスの運営に当たっては、将来的な自走化を目指

	し、運行計画、乗車方法、広報、車内広告スペースを活用したアイヌ文化等の啓発方法等について検討を行うとともに、運営に要する車両を整備する。 ③アイヌブランド化による水産振興事業 羅臼町においてアイヌの人々が多く生業としているコンブをはじめとした水産物のアイヌブランド化を推進する。羅臼町、知床半島及び北海道全体における水産物とアイヌの関わりについて調査を実施したうえで、調査結果を踏まえ、アイヌの人々の自然観を踏まえた持続可能な漁業を推進していること等について広報・宣伝を行うことにより、アイヌブランドの構築を図る。 また、アイヌブランド製品を安定的に供給するため、海洋観測ブイの導入により海水温等の海洋環境の変化を把握し、コンブ養殖作業等に役立てるとともに、水産物の種苗生産に必要な増養殖施設の機材更新や修繕を実施することで、コンブをはじめとした水産資源の維持増大を図る。
--	--

6 事業の成果目標等	
(1)成果目標の達成に向けた工程	(1)文化振興事業 ①アイヌ文化の記録保存事業 ・チャン跡をはじめとしたアイヌ文化の記録保存の成果については、羅臼町郷土資料館での展示、観光コンテンツ造成等の基礎資料として活用する。 ・基礎資料が充実することにより、各種事業において取り組む羅臼町郷土資料館での展示等の魅力が向上し、入館者数等の増加につながると考えられる。 ②アイヌの伝統等に関する文献等の収集・分析及び基礎資料作成事業 ・本事業において作成するガイドブックについては、羅臼町郷土資料館での展示、観光コンテンツ造成等の基礎資料として活用する。 ・基礎資料が充実することにより、各種事業において取り組む羅臼町郷土資料館での展示等の魅力が向上し、入館者数等の増加につながると考えられる。 (2)地域・産業振興事業 ①アイヌの伝統等に関する観光コンテンツ造成事業 ・観光コンテンツにふさわしいアイヌの伝統、文化、生活様式等の調査検討及び観光コンテンツの提供体制の検討等の成果に基づき、今後の観光コンテンツの造成を行う。 ・観光コンテンツの造成に向けた基本的な調査検討等を実施することにより、今後の円滑な観光コンテンツの造成、ひいては観光コンテンツ体験者数の増加につながると考えられる。 ②アイヌの人々の利便性向上及び観光振興のためのバス運営事業 ・アイヌラッピングバスの運行計画等の検討成果に基づき、今後のアイヌラッピングバスの運営を行う。 ・アイヌの人々や観光客の利便性の向上に資する運行計画等を立案することにより、バス乗車人数の増加につながると考えられる。 ③アイヌブランド化による水産振興事業

	・水産物のアイヌブランド化に向けたストーリー及び素材を活用し、今後、アイヌブランド化に関する広報・宣伝素材(webサイト、パンフレット等)を作成する。 ・魅力的なストーリーを作成するとともに、素材を収集することにより、アイヌブランド化に関する広報・宣伝素材(webサイト、パンフレット等)の魅力が向上し、web閲覧件数の増加につながると考えられる。 ・また、アイヌブランド製品を安定的に供給するため、ウニやコンブをはじめとした水産資源の維持増大を図る。 ・水産資源が維持されなければアイヌブランド化の推進は困難であり、また、水産資源が増大することにより、アイヌブランド化の対象となる商品数の増加等に繋がり、アイヌブランドの認知度向上やweb閲覧件数の増加に寄与すると考えられる。
(2)成果目標、 (中間)目標年度 (成果目標に対する現状値、及び成果目標の達成見込みについて記載すること)	(1)文化振興事業 ○羅臼町郷土資料館入館者数 (中間目標) ・令和9年度 1,800人／年間 (最終目標) ・令和11年度 2,200人／年間 (2)地域・産業振興事業 ○観光コンテンツ体験者数 (中間目標) ・令和9年度 0人／年間 (最終目標) ・令和11年度 200人／年間 ○バス乗車人数 (中間目標) ・令和9年度 200人／年間 (最終目標) ・令和11年度 600人／年間 ○アイヌブランド化に係るweb閲覧件数 (中間目標) ・令和9年度 1,250件／年間 (最終目標) ・令和11年度 5,000件／年間
(3)成果目標の確認方法	各KPIについて、実績値を公表する。また、羅臼アイヌ協会や羅臼町観光協会などの関係団体と連携し、目標の達成状況について検証し、改善点を踏まえて計画期間内の事業実施に反映する。
7 地域の概要	
(1)地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題	羅臼町は北海道の東部、知床半島に位置している。8千年前の縄文文化時代早期から遺跡が発見されており、トビニウス川南岸遺跡では、この地で最初に土器を使用した人々の残した数件の竪穴住居が確認されている。また、6世紀以降のオホーツク文化に関しては、

松法川北岸遺跡にて、2軒の火災を受けた住居から多数の精巧な木製品やトドやヒグマ、シヤチなどの動物を象った骨角器が発見されている。9～13世紀のトビニタイ文化期は羅臼町の飛仁帯地区が由来となっており、この時期の遺跡として、オタフク岩洞窟はその後のアイヌ文化との接点になる遺跡として有名である。この洞窟の奥壁からは10個体以上のヒグマの頭骨が並んで出土しており、いわゆる冬グマで成獣の雌が5頭以上含まれているのに、仔グマの骨は発見されていないことから、仔グマ飼育型のクマ送りがすでになされていた可能性が指摘されている。

羅臼町では、13～14世紀のアイヌ文化期に築かれたチャシが13基確認されているほか、キャンプサイトとしてオタフク岩遺跡が確認されている。1789年、松前藩の場所請負制度によって経営されていた国後場所の飛騨屋の圧政に耐えかねた国後、目梨地方のアイヌが決起し、71人もの和人を殺害するという事件が発生した。羅臼町のオルマップ川の河口にあった番屋でも8名が殺害されている。この時間は、松前藩が派遣した軍勢により根室のノカマップで参戦者37名が処刑されて終わっている。松前藩の記録によると「乱に加わったウエンヘツ(現羅臼町)徒党のアイヌは」として、タツカリウス、マッカウス、チカフコイキウシ、が記載されており、少なくともこの3ヶ所にはアイヌのコタンがあったと推測される。

1845年以降、松浦武四郎がこの地を幾度も訪れ、膨大な記録を残している。特に地名は克明に記録され、明治以降の帝国陸地測量部の地図も松浦武四郎の地図を参考に作られている。羅臼町では、松浦武四郎が残した文献と地図(東西蝦夷山川地理取調図・1859年)を元に、羅臼町におけるアイヌ語地名の歴史を後世に伝えるため、「続・羅臼町の地名について」を発行している。町内には多くのアイヌ語地名が残っており、その例として、知円別は「チェプ・ウン・ペツ(魚(鮭)・そこにいる・川)」、チトライは「チ・トライ(我々が・同伴する所)」、幌萌は「ホロ・モイ(大きな・湾(入り江))」などがあげられ、現在の行政区画名の多くでアイヌ語地名が由来となっている。

明治以降の羅臼町の発展は水産業を軸に進められたため、アイヌも漁業者の一翼を担うこととなったと推測され、「和人文化との融和」「日本人化」が進み、地域固有の伝統的アイヌ文化は急速に失われていった。

羅臼町では北海道アイヌ協会羅臼アイヌ協会が設立され、2024年11月現在、27名の会員が所属しているものの、自ら「アイヌ民族」を表明しない人々や自覚しない人々(サイレントアイヌ)が大勢を占めている。

平成23年12月に開館した羅臼町郷土資料館では、オホーツク文化、トビニタイ文化、アイヌ文化及びこれらの基礎となる自然環境に関する展示を行っているが、アイヌ文化の保存継承、理解促進、交流の促進などの取組はまだ不十分である。また、羅臼町は、知床世界自然遺産地域を有しており、年間50万人程度の観光入込があるが、観光客にアイヌ文化を伝える取組もほぼ行われていない。

このため、オホーツク文化・トビニタイ文化とのつながり、豊富な水産資源、原生的な自然環境等を活かした、羅臼町ならではのアイヌの伝統等の保存継承及び理解促進を進めるとともに、アイヌの伝統等を活かした観光振興を図る必要がある。また、地域内の交流や人材育成等を推進するとともに、羅臼町ならではの資源である海産物の資源増大を図る必要がある。これにより、アイヌの人々が民族としての誇りを持って生活することができ、及びその

	誇りが尊重される社会の実現を図る必要がある。
(2)施設等の管理 運営体制	・水産物の増養殖施設は、羅臼町が設置し、羅臼漁業協同組合が管理している。
(３)アイヌ関係 団体及び地域住 民の協力体制	羅臼アイヌ協会とは随時双方向から円滑にコンタクトがとれる環境であり、協議事項がある場合においても円滑な関係が保たれている。

8 収支予算

(1) 収入の部

(単位：円)

区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度予算額)	比較増減	
			増	減
国庫補助金	61,450,000	31,890,000	29,560,000	0
都道府県負担額	0	0	0	0
市町村負担額	15,390,000	7,988,160	7,401,840	0
民間団体負担額	0	0	0	0
雑入	0	0	0	0
計	76,840,000	39,878,160	36,961,840	0

(2) 支出の部

(単位：円)

経費区分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度予算額)	比較増減	
			増	減
文化振興事業	17,835,900	26,518,000	0	△ 8,682,100
旅費	0	28,000	0	△ 28,000
消耗品費	94,000	200,000	0	△ 106,000
委託料	17,741,900	26,138,000	0	△ 8,396,100
備品購入費	0	152,000	0	△ 152,000
地域・産業振興事業	59,004,100	13,360,160	45,643,940	0
委託料	23,739,100	3,661,900	20,077,200	0
備品購入費	0	9,698,260	0	△ 9,698,260
旅費	400,000	0	400,000	0
役務費	50,000	0	50,000	0
修繕費	23,100,000	0	23,100,000	0
工事費	11,715,000	0	11,715,000	0
合 計	76,840,000	39,878,160	36,961,840	0
旅費	400,000	28,000	372,000	0
消耗品費	94,000	200,000	0	△ 106,000
委託料	41,481,000	29,799,900	11,681,100	0
備品購入費	0	9,850,260	0	△ 9,850,260
役務費	50,000	0	50,000	0
修繕費	23,100,000	0	23,100,000	0
工事費	11,715,000	0	11,715,000	0